

# 私の思い出話

久保藤吉

松が丘片山町会創立55周年記念と江古田の歴史を語る会が松が丘片山会館で開催されるに当って思い出の一端を

今はなき熊沢宗一さんからお聞きしたお話を土台として申し上げ度いと思えます。私は京橋の鉄砲洲の生れであります。子供の頃近所の八百屋の店先で八百屋のおやじさんがこれは西山物だから高いけれどうまいよと云っていたのが記憶にあります。西山物とは内藤新宿から柏木、大久保、落合、中野、野方方面でとれた野菜を総称してのことです。新宿と云う地名は全国に沢山ありますが、東京の新宿は内藤さんのお屋敷があったことから内藤新宿と云います。今の新宿御苑は絵島、生島の物語で知られる信州高遠の城主内藤大和守の江戸屋敷跡で、その屋敷内にて唐茄子(南瓜)を初めて栽培したところ非常に出来が良く、おいしかったので近隣の百姓にその種を分ちあたえました。そして内藤新宿から西山地区へ広がって行ったのでありますが、西山地区は地質が良いのでしょうすべての野菜の出来が良かったので、京橋の青物市場であった大根河岸や神田の多町や浜町などの市場へどんどん出荷されました。大根河岸は京橋の際にありました。神田の多町は秋葉原へ国電には秋葉原と書いてありますが、江戸時代から東京の人は秋葉が原と云っておりました。それらの市場へ出荷された中でも南瓜は内藤唐茄子と云って大評判となったのであります。内藤唐茄子と云っても大正の初期ともなれば、内藤新宿の近在には畑は少なく盛んに生産されたのは当江古田地区を中心とした西山地区であります。皆さん御承知のあの凸凹のある唐茄子が内藤新宿から始まったので内藤唐茄子と云っていました。大正の初期には北海道の種の栗南瓜はありませんでしたので、内藤唐茄子が一番おいしい唐茄子と云われておりました。

当地方で産出される野菜は茄子、胡瓜、白瓜、大根、南瓜などを中心として西山物と云って品質が殊に勝っていたので一般よりは高値に売れたそうです。現に私が子供時分下町の八百屋で西山物だから高いよと云っていた程です。

又当地区では大根を決山つくっていたようであります。江古田でつくられていても練馬大根と云っていたそうであります。そして訳庵漬も沢山つくっていて軍隊や一般にも大いに売り出されたようです。

私の最も尊敬している熊沢宗一さんは明治37、8年のあの日露戦争に従軍して満州に約1年半おりました。その折満州で食べた菜っ葉は非常においしく、日本にはこのようにおいしい菜っ葉はなかったので、凱旋してから種屋に頼んでその種を取り寄せて自分の畑でつくりました。西山物と云れる土地柄だけあって見事な出発でありました。そして勇躍市場へ出荷したのでありますが、問屋では西洋野菜だと云ってあまり歓迎しなかったそうですが、消費者の手に渡って見ると大変に評判が良く、その内に注文されるようになりだんだん近隣に広まり、甘味があっておいしい漬け菜として遂に関東一円に広まり、おそらくそれから全国に広まったのでありましょう。江戸時代から大正の初め頃までは、三河島の漬け菜でなければならぬ程東京の人の好みであった有名な三河島の漬け物は遂に姿を消してしまいました。その漬け菜は皆さんが日頃召し上っているし、又中華料理には無くてならない白菜であります。白菜はこの片山で最初に栽培されて江古田地区から全国に普及された輝かしい土地であると云うことを誇りに思いつつ熊沢宗一さんに心から御礼申上げる次第です。

つたない思い出話で失礼いたしました。